

第 15 回がん患者大集会 田原信先生へ質問への回答

①立場；家族

肛門管がんの扁平上皮がん（肺がん、肝臓に転移あり）に対して光免疫療法が可能か治療予定はあるかどうか。小さな情報でも知りたい。

回答①：遠隔転移に対して光免疫療法を実施しておらず、その安全性も確認されていません。光免疫療法をすることで、重篤な合併症も懸念されるため、現在、進行中の臨床試験（治験）は、遠隔転移を有する患者さんは参加できません。免疫チェックポイント阻害剤などの薬剤と光免疫療法との併用療法の臨床試験が検討されており、その場合は、局所再発かつ遠隔転移を有する患者さんも参加可能になる可能性はあります。しかし、現時点で肛門管がんを対象とした臨床試験（治験）は計画されていません。

②立場；家族

光免疫療法について。今後、遠隔転移も効果が期待できそうとのことでしたが骨転移への展望についてはいかがでしょうか。

回答②：回答①で述べたとおり、遠隔転移に対して光免疫療法を実施しておらず、その安全性も確認されていません。特に骨転移に対してカテーテル針を腫瘍内に挿入することが困難であるため、光照射が困難であることが予想されます。

③立場；患者

お茶の水大学病院にて、2018年に胆管がんになりました。

体力不足で外科手術は出来ませんでした。副作用が強く2か月で中止。

抗がん剤治療、エスワンタイホウにて現在続けています。

光免疫療法は胆管がんにも有効ですか。

回答③：現在開発中の光免疫療法は、上皮成長因子受容体(EGFR)をターゲットとする抗体薬セツキシマブを使用しています。胆管がんでは38-100%発現しており、セツキシマブと抗がん剤併用療法の臨床試験において有効性も報告されています。胆管がんの原発に光照射すると、胆汁が腹腔内に漏れてしまい、腹膜炎になるため、光免疫療法によってかえって命が危なくなってしまう可能性があります。皮膚、体表近くのリンパ節であれば、光を照射することは可能ですが、体表から深い部分での病変に対して光照射が困難であることが予想されます。また、回答①で述べた通り、遠隔転移に対して光免疫療法を実施しておらず、その安全性も確認されていません。現時点では、胆管がんを対象とした臨床試験（治験）は計画されていません。

④立場；患者

光免疫療法について、がん細胞は破裂した時、播種、拡散してしまうことがありますか。

費用はどのくらいですか。

回答④：がん細胞が破裂した場合、その内容物は死んだ細胞ですので、播種・拡散することはないです。

費用はまだ決まっていません。

⑤立場；家族

家族が蝶形骨がんで治療をしています。光免疫療法が有効な可能性があるか知りたいです。

現在、オプジーボ治療中です。

回答⑤：蝶形骨がんの組織型が、扁平上皮癌であれば光免疫療法が有効である可能性があります。しかし、現在治療している再発あるいは残存病変が、頭蓋内に浸潤している、頭蓋骨に浸潤している場合は、光免疫療法によ

り髄膜炎のリスクが高まるので、光免疫療法によってかえって命が危なくなってしまう。再発している部位を画像で確認する必要がありますので、主治医の先生に相談してください。

⑥立場；患者

膵がん手術後、抗がん剤治療 6 か月終了後 3 ヶ月毎再発転移の検査を受けていますがそうならない為の予防治療はないでしょうか。

回答⑥：申し訳ございませんが、膵癌治療後の予防に関しては、精通していません。主治医の先生にご相談ください。

⑦立場；その他

光免疫療法は脳腫瘍に適用となる可能性はありますか。

回答⑦：講演中に説明した通り、光免疫療法によって、急速に腫瘍は壊死します。痙攣、脳壊死などによって重篤なことが懸念されます。光照射も開頭しないと難しいと思われますので、光免疫療法の治療対象としての開発はすぐには進まないと思われます。まずは動物実験での安全性の確認が必要と思われます。

⑧立場；患者

光免疫療法は転移がなければ乳がんはできますか。

回答⑧：乳がんも EGFR の過剰発現が 14-91%と報告されていますので、現在の光免疫療法が有効性である可能性はあります。しかし、現時点では乳がんを対象とした臨床試験（治験）は計画されていません。

HER2 をターゲットとするハーセプチンに光吸収体(IR700)を結合させた薬剤は、基礎実験では HER2 陽性の乳がんにも有効であることが示されています。しかし、まだ臨床での開発は進んでいません。

⑨立場；患者

光免疫療法について、悪性中皮腫の抗体はあるとなっていました。今後日本での治験に予定はあるのか。あるとしたらいつごろどんな患者が対象となるのか教えてください。

回答⑨：現時点では悪性中皮腫を対象とした臨床試験（治験）は計画されていません。

⑩立場；患者

肺癌ステージ 4 です。光免疫療法の適用可能性はありますか。

何時ごろの時期になりそうですか

期待しているのだけどいつまで経っても分からない。

回答⑩：非小細胞肺癌も EGFR の過剰発現が 40-80%と報告されていますので、現在の光免疫療法が有効性である可能性はあります。しかし、肺の腫瘍に対しての光免疫療法を行うことで、気胸、肺炎、出血など重篤な副作用が懸念されます。すなわち、光免疫療法によってかえって命が危なくなってしまう。まずは動物実験での安全性の確認が必要と思われます。現時点では肺癌を対象とした治療開発は計画されていません。

⑪立場；患者

消化管穿孔を考えると光免疫療法は消化器がんには使用できない可能性が高いという認識であっていますか。

回答⑪：粘膜表面の消化器がんであれば、光免疫療法も安全に実施可能と思われますが、進行がんであると消化管穿孔が懸念されるので、かえって命が危なくなってしまう。

⑫立場；家族

将来、開発が進めば遠隔転移した肝臓とか腎臓等のがんにも治療可能ですか。

今、キイトルーダで治療中です。

回答⑫：回答①でも述べた通り、遠隔転移に対して光免疫療法を実施しておらず、その安全性も確認されていません。光免疫療法をすることで、重篤な合併症も懸念されるため、まずは動物実験での安全性の確認が必要と思われます。

⑬立場：家族

光免疫療法は固型癌に適応されるようになるかどうか

子宮体癌（キイトルーダ）とレンビマ承認される可能性は。

MS-1も調べるかどうか。

回答⑬：現在進行中の治験の対象は、頭頸部扁平上皮癌であるので、最初の承認は頭頸部扁平上皮癌となることが予想されます。わが国の承認は、治験対象を基にしているので、光免疫療法の適応は固形癌にはならないと思われます。

子宮体内膜がんに対するペンブロリズマブとレンバチニブ併用療法の結果が報告されていますが、私自身が子宮がんの治療に精通していませんので、結果の解釈に関しては担当医の先生に伺ってください。

⑭立場：患者

乳がん再発 肺転移です。

穿刺可能な部位は後はどこまでできるのでしょうか。

回答⑭：回答①でも述べた通り、遠隔転移に対して光免疫療法を実施しておらず、その安全性も確認されていません。光免疫療法をすることで、重篤な合併症も懸念されるため、まずは動物実験での安全性の確認が必要と思われます。

⑮立場：患者

私は大腸がんです。セツキシマブ投与後にアレルギー反応が出てしまい使用できませんでした。セツキシマブにアレルギー反応がある人は光免疫療法治療はできないのでしょうか。

回答⑮：セツキシマブにアレルギーのある方は、安全性が懸念されるので、光免疫療法は実施できません。治験においてもセツキシマブにアレルギーの有無を事前にチェックしています。